

北海道シマフクロウ通信

北海道シマフクロウの会 会報

第5号



つがいのシマフクロウ・左が雄 写真；山本純郎

天候による行動変化

通常の行動パターンは、日没頃より活動を開始し日の出前にねぐらにつくが、曇りの時は、活動する時間帯が早くなり、ねぐらにつく時間帯が遅くなる傾向にある。雨天時は雨量にもよるが、活動は遅く始まり、遅くにねぐらにつく。夜間の活動で、雨量が20mm/h程度であれば、晴天時と変わらず行動する。活動が一番鈍るのは、強風（10m/s以上）になったときで、あまり飛行しない。それと暴風雪時（視界数m）も、ほとんど動かない。

「シマフクロウ」（山本純郎著 北海道新聞社）より



コタンコロカムイ オルシベ (シマフクロウのお話) その1

北海道シマフクロウの会理事 本田 優子 (札幌大学副学長)

コタンコロカムイ (村を司る神)ーアイヌの人々は、シマフクロウのことをこう呼んできました。キムンカムイ (山の神=クマ)、レプンカムイ (沖の神=シャチ) と並ぶ最高位の神とされ、その荘厳で凛々しい姿は見る者を圧倒します。

ところが、シマフクロウ研究の第一人者・早矢仕有子先生 (札幌大学、本会顧問) によれば、実際には結構ドジで人間臭い一面があるとのこと。そういわれてみれば、アイヌの物語にも妙に親近感のわくシマフクロウが登場します。例えばその一つ、私の大好きなカムイユカラ (神謡) を要約してご紹介しましょう。

私はクモの女神。私の夫は村の守護神、偉いシマフクロウの神。でも、あまりにもブサイクなので私は顔を見るのも嫌で、食事を作っても後ろから差し出す始末でした。ある日、夫が酒を造って宴会を開いたところ、集まって来た神々の中でも群を抜いて素敵だったのが若いシャチ神。私はたちまち狂おしい恋情に身を焦がし、お気に入りの着物を袋に詰め、

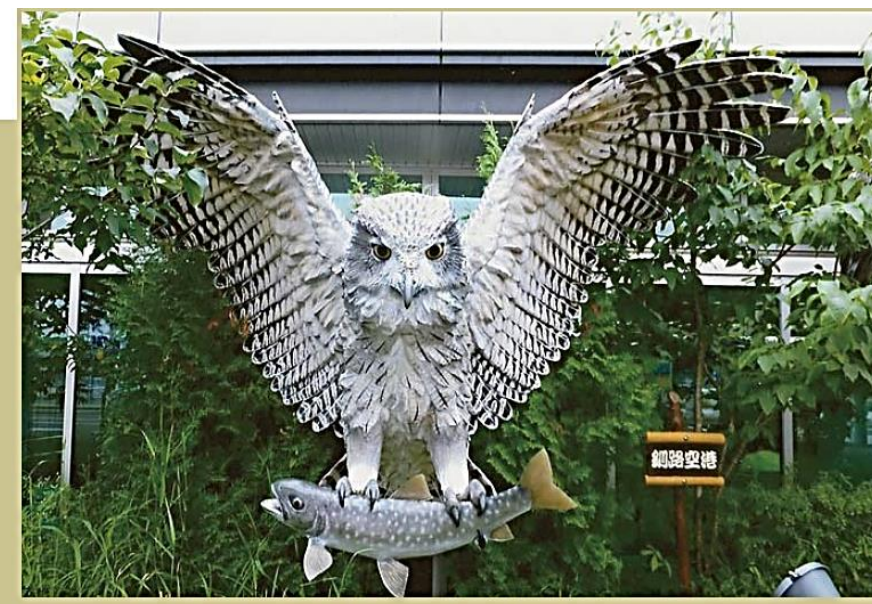
彼を追いかけて家出したのです。けれども私を見たシャチ神は、「醜い悪女!立派な夫を持ちながら、なんという振る舞いを!」と怒り、私を蹴飛ばして海に飛び入り、泳ぎ去ってしまいました。あれほどのイケメンをそのまま逃してなるものかと、私も海に飛び込み、水脈の跡を追いかけてきました。彼が渦潮の穴に入ったのがわかったので、私も渦巻に入ったところ狭い砂浜に出て、やがて黄金の家に辿り着きました。意を決して中に入ると、着替え中だったシャチ神は憤怒の形相で太刀を抜き、矛を投げつけてきました。私は夢中で逃げましたが、彼は太刀と矛を突き付けつつ追いかけてきます。死にもの狂いで渦潮を通り抜け、渚の砂へ上がったところで、シャチ神は私を罵りながら帰っていきました。(原典は久保寺逸彦『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店 1977)

——さて、帰って来た浮気妻に対して、夫のシマフクロウ神は?
次号に続きます。



<シマフクロウに会える場所> 彫刻・装飾に見るシマフクロウ (4) 釧路空港のモニュメント

北海道シマフクロウの会会長
横内 龍三



道東地方には、北海道を代表する生物が沢山生息しています。釧路市は、阿寒国立公園、釧路湿原国立公園を中心とした観光の要として、毎年多くの観光客でにぎわいますが、その交通の要所が釧路空港です。この釧路空港の環境整備事業の一環として、生物多様性の保護に注力する地元の姿勢をアピールするため、平成 19 年に北海道の自然をテーマとしたモニュメントが空港正面の植栽の中に設置されました。シマフクロウ、タンチョウ、ヒグマ、エゾシカの4種類の大きな彫刻が訪れる人の目を引きま

このうち、「シマフクロウ」は空港の建物に向かって一番左端に位置し、羽を

広げて魚を捉えた躍動感みなぎる一体と、樹木に留まり静止した一体の計二体 (実物の約2倍の大きさ) を見ることが出来ます。これらのシマフクロウの像は極めて精巧なもので、制作にあたっては骨格や羽の模様や枚数に至るまで細部に随分と気を配ったそうです。デザインは、釧路市動物園が監修にあたり、三次元のコンピューターグラフィックを使って制作したというだけあって、極めてリアルな彫像となりました。愛称「たんちょう釧路空港」を訪れる方々が、タンチョウばかりでなく、この絶滅の悲しみを訴える「シマフクロウ」にも目を向けて下さることを願うばかりです。



北海道での「どんぐりポイント制度」の広がり

どんぐり事業事務局 横田 智広 (みずほ情報総研株式会社 チーフコンサルタント)

“環境に良い商品の目印”である「どんぐりポイント制度」が、北海道でも広がりをみせようとしています。

この制度は平成 25 年 11 月に開始し、経済産業省の補助事業として運営されています。商品が作られてから捨てられるまでにどれだけの CO₂ を出すかを計り、ムダな CO₂ を減らし、それでも減らせない CO₂ を別の場所 (例えば植林など) で減らした CO₂ で相殺する仕組みを「カーボン・オフセット」と言います。このカーボン・オフセットを行った商品に「どんぐりポイント」を付けることができます。

どんぐりポイントは、「コミュニティ

として登録された学校や NPO などの団体が集めて、エコな商品と交換したり、環境貢献活動へ寄付したりすることができます。分かりやすく言うと、環境版のヘルマークのような仕組みです。

北海道でもさまざまな商品にどんぐりポイントが付き始めました。集められたポイントは貴会へ寄付され、“みんなで北海道のシマフクロウを守る” 枠組みが出来ています。地域の一体感を生む環境貢献の新たな枠組みとして、注目を集めています。

制度内容や北海道での取り組みの詳細については、制度のウェブサイトなどをご参照ください。



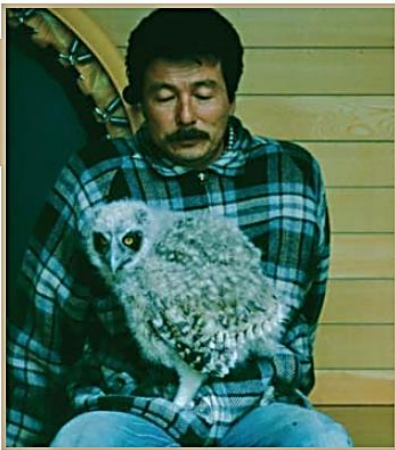
北海道の環境イベントでもどんぐりポイント制度を紹介。マスコットの「どんぐりん」も活躍中。



制度ウェブサイト : <http://www.donguripoint.jp/index.html>
北海道での取り組み : <http://www.donguripoint.jp/area/hokkaido/index.html>

北海道でのどんぐりポイント制度の取り組み概要





1997年5月22日 Donと私

シマフクロウの生態 Donのこと

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎



2008年5月6日 雛は孵化後1ヶ月



2014年 現在

前回まではシマフクロウのしぐさや行動などを紹介してきましたが、今回は野生とは違うシマフクロウについて話したいと思います。

私が以前、人工孵化させたシマフクロウ (Don と名づけました) が賞を受けることになりました。その経緯については省略させてもらうとして、World Owl Hall Fame の The Lady Gray Award に選ばれたのです。この賞はフクロウ自身に贈られるもので、飼育、野生を問わず功績のあったフクロウに贈られるものです。授賞式は2015年3月にミネソタで行われる International Festival of Owls で行われます。

Don の功績は人工孵化で生まれ育ったシマフクロウ (1997年生まれ) が2008年単独で抱卵、子育て、そして子別れの儀式まですべて完璧に行い、さらに育て上げた若鳥が自然に復帰し、番い形成をして繁殖まで行ったことです。人

工的に育った鳥の中には人を同類と思ひ込み、人に向かって繁殖行動をとろうとするものもあります。よくテレビなどで、人がその鳥の着ぐるみを着て鳥に接する場面がありますが、それは自分には人ではないということを認識させるためのものです。この方法は完全に人をシャットアウトしなければ意味をなさないのです。設備の整った施設だけしか試みることが出来ません。私にはこのような方法は不可能です。ただこれまで野生のシマフクロウの行動観察が非常に役立ち、それに沿った方法で私自身が雄の役割を果たしました。

私自身これまでの半世紀 多くのフクロウ類を飼育し野生の大切さを思い知らされました。私の手中で死んでいったフクロウたちの願いが、この Don の受賞につながったものと思います。私は私自身が賞を受けるよりその何倍も喜びを感じています。

Don のプロフィール

- 1997年4月15日根室生まれ 17歳
- 2004年より産卵を行う
3卵が2回 4卵が1回 (シマフクロウの産卵数は1卵か2卵)
- 2008年 野生のシマフクロウにアクシデントが発生 その卵2卵を抱卵 環境省の承諾 4月に2卵とも孵化 5月には2羽とも巣立ち 翌年3月子別れの儀式
- 2011年 若鳥の1羽が自然復帰 翌年繁殖
- 2015年1月現在
Don の所在地 根室市有林内

事務局便り

本号では新たに連携を開始した環境貢献の仕組み「どんぐりポイント制度」の概要についてご紹介しています。ポイント制度が利用されることにより、当会が寄付を受けられ、シマフクロウの保護活動支援につながるというものです。詳しくは本号の制度紹介文をご参照ください。

●入会を募集しています

引き続き当会の趣旨にご賛同いただける個人の皆様の入会を募集しております。ホームページからも入会の手続きが可能となっておりますのでご覧ください。

北海道シマフクロウの会 事務局 (担当: 米谷・高橋・廣谷)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 北海道二十一世紀総合研究所 内
TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683 URL: hokkaido-shimafukurou.org